

## 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第5回）会議要録

- 1 日 時 令和6年11月6日（水）18時30分から20時30分まで
- 2 場 所 武蔵野商工会議所4階市民会議室
- 3 出席委員 阿部、市川、和、熊田、見城、坂井、酒井、佐藤、鈴木、西田、馬場、  
福本、町田、宮田、山田、吉田（敬称略）
- 4 欠席委員 なし
- 5 事務局 福島（常務理事）、田村（事務局長）、ほか事務局職員
- 6 傍聴者 なし
- 7 議 事

### （1）事務局より

事務局より、配付資料の確認を行った後、主管課より武蔵野市地域支援課の林課長補佐が出席することを伝えた。また、資料1 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会 委員名簿に基づき、委員より辞任の申し出を受けたため、委員が交代する旨を伝えた。

### （2）委員委嘱

事務局より、新たに委員となる方へ委嘱状を交付した。

**【委員】** 武蔵野市民生児童委員協議会において、委員の辞任を受けて私が委員となりました。不安はありますが、どうぞよろしく願いいたします。

### （3）委員長挨拶

**【委員長】** 本日は出席いただきありがとうございます。今回の策定委員会より新たな委員を迎えています。策定委員会は佳境を迎えていますが、新たな委員の方にも是非お力を貸して欲しいと思います。最近、出生人口が70万人を割る可能性があるということが話題となっています。地域社会が変化する中で、少子高齢化に対してどのように向き合っていくかということは、第5次武蔵野市民地域福祉活動計画（以下「第5次活動計画」）を策定する中での大事なテーマの一つになると思います。今後、子どもを増やすだけでなく、今の子どもがどれだけ幸せに生活できるかということも大事な視点となると思いますので、是非そのことを念頭に置きつつ、意見を出して欲しいと思います。

### （4）議 事

- ①第4回策定委員会 会議要録確認 資料2

【委員長】 **資料2 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第4回）会議要**

**録**を確認し、意見や訂正等があれば修正いたしますが、いかがでしょうか。

なお、委員会終了後の校正依頼については、11月13日（水）までに事務局まで連絡ください。

※委員からの意見等はなかった。

### ②第5次武蔵野市民地域福祉活動計画 体系図案について

【委員長】 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画 体系図案について、事務局より説明をお願いします。

※**資料3**および**資料4**に基づき事務局より説明した。

【委員】 **資料4**の中に、住民のかかわり・つながりの公共・専門機関において、「広報支援」という文言がありますが、皆さんに知らせるといふ広報を支援するという意味でよろしいですか。

【事務局】 直接広報するということ合いもありますが、普段市民が通る場所にチラシを置く等の広報を行う上での働きかけという意味があります。例えば、三鷹駅へチラシを置くことについて、住民が働きかけることは難しいという意見を第4回策定委員会においていただきました。そのような場合、行政や専門機関、当会がサポートを行う等、広報に関する働きかけをするという意味で「広報支援」という言葉を用いています。

### ③グループディスカッション

【委員長】 グループディスカッションの実施方法について、事務局より説明をお願いします。

※**資料5**に基づき事務局より説明した。

【委員長】 各グループにてグループディスカッションをお願いします。

（グループワークを実施した後、各グループで出た意見について発表があった。詳細は

**別紙 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第5回）グループワーク報告**

を参照。）

【委員長】 様々な意見を出してもらい、ありがとうございました。事務局からの話の通り、今回のグループディスカッションにおける意見を踏まえ、第5次活動計画の冊子における形式および中身について改めて見直しを行います。ただし、短い期間の中での見直しとなるため、皆さまからの意見を十分に反映できない部分もあることを予め了承してもらいたいと思います。

(5) その他

①パブリックコメント募集概要について

※資料6および資料7に基づき事務局より説明した。

【委員】 資料6の1 意見募集の中で Google フォームによる回答とありますが、回答の URL に遷移する二次元コードはどの媒体に掲載するのか教えてください。

また、資料7については word 形式での掲載を行う予定か教えてください。

【事務局】 二次元コードについては広報媒体での掲載および SNS 上での掲載を予定しています。資料7については当会のホームページに word 形式でのデータを掲載する予定です。

②懇親会の開催について

※資料8に基づき事務局より説明した。

(6) 次回日程

・12月4日(水) 18時30分より 武蔵野商工会議所 5階 第1、2会議室

【委員長】 他になければ、これで第5回の策定委員会を終わります。

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第5回）  
グループワーク報告

グループA 情報発信			
阿部 春彦	和 秀俊	宮田 恵	吉田 真也
(職員) 横山、林			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の取り組み内容とも横断している部分が多い。土台にもなっている。中々分けづらい。</li> <li>・ここでいう情報発信はいかに必要な人に情報を届けるかであり、住民のかかわり・つながりにかかっているものはあくまでも手段なので、明確に分けても問題ないのではないか。しかし、全体に情報発信という言葉が多く記載されているので、整理は必要。</li> <li>・掲示板などの紙媒体の方が、情報弱者(高齢、障がい、外国人など)には有効的ではないか。例)大学の食堂の掲示板</li> <li>・今ある広報媒体をいかにわかりやすくするか考えても良いのではないかと。例)動画-字幕・ふりがな付きにする</li> <li>・障がい者だけでなく、高齢者も手話ニュースをよく観ている。</li> <li>・やさしい日本語を基本に作成すれば、だれでも見やすいものになるのではないかと。「地縁」や「テーマ型」という言葉はわかりづらいので、別の言葉にするか説明書きが必要。</li> </ul> <p>【計画書の構成や作り方について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前計画から継続して取り組むものと新しい取り組みを分かりやすく表記する。</li> <li>・概要版(市民向け)と本書(関係者向け)を分けて作成してはどうか。</li> <li>・専門用語をどうわかりやすく表現するか。</li> </ul>			
グループB 住民のかかわり・つながり			
市川 順子	坂井 健司	鈴木 庸子	馬場 武寛
(職員) 佐々木、後藤			
<p>【体系図の構成について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本理念、基本目標2つ、取り組み5つというシンプルな構成は良いと思う。</li> <li>・情報発信と相談機能に関する内容が充実することで、市民がつながりたい時につながることができると思うので、基本目標1の取り組みはとても重要だと思う。</li> <li>・「取り組み」に“しくみをつくる”という言葉がいくつか出てくるが、実態感がないように感じるため、具体的なアクションを想起できるよう言い換えた方が良い。Bグループの取り組みは「身近な地域で自然につながりをつくる」が良い。</li> <li>・実施主体の住民サイドを示す地縁やテーマという括りはわかりづらい。地縁は地域とのつながりが薄い人や転入者にとっては連想しづらい。また、テーマ型でま</li> </ul>			

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第5回）  
グループワーク報告

<p>とめられているボランティア・NPO・商店は全く属性が異なるし、一括りになっている感じがする。例えば、「個人」「団体」「公共・専門機関」「社協」等の分け方はどうか。その中では、団体は子育て、環境、教育、高齢者等、団体側が我がことのように想像しやすいように書かれていると良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画書を自ら手に取る人はおおよそ「感度が高い人（すでに何かしらの活動に関わっている人）」だと思うので、まだ興味のない人に届くように、計画書のデザインなどよりは発信に力を入れてほしい。</li> </ul> <p><b>【地域に興味のない人に対するアプローチ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組みやアクションの中に、興味のない人に対するアプローチは書いておかなくて良いのか。そのようなまだ関わっていない人の感度の育て方についても書いておいた方が良い。</li> <li>・個人が隣に住んでいる人を気にかけてたり、商業者がお店に来た人の変化に気づいたりなど、感度が育つと自然に参加できるようになると思う。</li> <li>・商業者は、これまで商売するために地域とのつながりを大切にしてきたが、最近ではインターネットの普及等により、地域とつながらなくても商売ができるため、地域とつながっていないお店もある。一方で、地域の情報をもらって感度が上がってくると、住民の変化に気づけるようになると思うので、地域活動に参加を促したい人や団体に「どうつなぐとアクションにつながるのか」を想像してアクションを書くのが大事だと思う。</li> <li>・多くの人が地域に関心を持つ社会にしていくには、6年間の計画の中だけでは達成できないと思う。ライフスタイルの変化や価値観の変化、テクノロジーの変化、マスメディア、子どもの教育の面を見据えて、もっと長期的なビジョンに向けた何かを書いておくべきだと思う。</li> <li>・実施主体「個人」の中には、気軽に始められる「近所を散歩する」「あいさつをしてみる」「最寄りの施設（コミセンなど）に行ってみる」などのアクションが書かれていると参加するハードルが下がる。</li> </ul> <p><b>【さまざまな段階の団体が参加できるような意識】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組みやアクションの内容によっては、すでに課題をとらえ、取り組みを進めている団体もある。新しい取り組みを「作る」ではなく、「見直す」「さらに育てる」「成功している取り組み事例をお互いに共有する」ことが必要。</li> </ul>			
<b>グループC 担い手</b>			
熊田 博喜	見城 学	西田 順子	町田 敏
（職員）田村、木原			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地縁とテーマ型に記載されている内容がほとんど同じなので、共通するものがあったても良いが重なり過ぎない方が良いのではないか。</li> </ul>			

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第5回）  
グループワーク報告

<p>→（地縁）入りやすさ、楽しさ（テーマ型）理念や理想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地縁には、定年前後の男性の活躍のきっかけや場について追記したい。</li> <li>・テーマ型には、自分の得意なこと（専門知識）を活かすことを追記したい。</li> <li>・地縁とテーマ型に記載されている内容は、活動の中身と仕組みに分けられると思うので、カテゴリイズした方が見やすい。</li> <li>・その後の活動が入口とは別のものになることもあるので、色々な切り口があって良いことがわかるよう、地縁とテーマ型をスムーズに移行できるような表の見せ方をしたい。</li> <li>・公共・専門機関と市民社協には、活動者の活動やモチベーションをバックアップする仕組み（助成金・イベント・横の連携）を期待したい。</li> </ul> <p>【計画書の体系について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横串的な考え方が最も重要だと思うので、横並びに見られる表の作りは良い。</li> <li>・関心がない人に見てもらえる工夫が必要。</li> <li>・主催者の思いだけでの発信は偏りがちなので、そうならない言葉選びが大事。</li> <li>・基本目標に「武蔵野」と入れているが、読み手が込められている意味や今までの自身の活動への誇りを感じられるよう、もう一工夫欲しい。</li> </ul>			
<b>グループD 相談機能</b>			
酒井 陽子	佐藤 清佳	福本 千晴	山田 剛
（職員）三藤、河合			
<p>【計画書の体系について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後計画の冊子を作る際、「インフォーマル」等の専門的用語は普段使わないので、分かりやすい表現を（）で言葉の後ろに表記したり、脚注がある方が良い。用語集にも説明があるとより分かりやすい。</li> <li>・今まで地域活動等に参加していないが、コロナ禍を経て新しく活動に参加したいと思う方にも読んでもらえるような内容の計画書になると良い。</li> <li>・グループワークの前に委員より質問があった「広報支援」という言葉について、「広報の支援」と言葉を付け加えると意味合いが分かりやすいのでは。特に文言は人によって解釈が変わるので、気を付けた方が良い。</li> <li>・計画書のデザインはどうなるのか。資料4の細かい字の表は最終的にどのような形で計画書に載せるのか。 ⇒デザインについては今後の策定委員会にて別途検討する予定。なお、体系図の見せ方は資料3の体系図のイメージがベースになると考えている。</li> <li>・前回計画に比べ、シンプルになることは市民がこの冊子を活用するという意味でとても良いと思う。</li> <li>・今回の計画では基本目標と取り組みという枠組みだと思うが、前回計画での基本</li> </ul>			

目標と小目標の他に重点的な取り組みを枠組みとしていた。今回の計画と前回計画との枠組みの違いを教えて欲しい。

⇒前回計画では基本目標を横断する形で重点的な取り組みを示したが、小目標と重点的な取り組みの両方で同じ内容を示していた。それにより、初めて計画冊子を見た人が見て分かりづらいものとなっていたこと、また計画における評価をする中で、同じ内容である小目標と重点的な取り組みをどう評価するのが課題となってしまうていた。そのため、今回の計画ではシンプルかつ市民の方が見て分かりやすい枠組みとして、基本目標と取り組みとした。

【「福祉の情報」と「地域の情報」について（相談機能）】

- ・基本目標1に「福祉の情報」という言葉があるが、具体的な取り組みの内容には「地域の情報」に対することしか記載がされていない。

また、基本目標1の相談機能の具体的な取り組みである「困った時に助け合えるしくみをつくる」について、情報発信の取り組みと同じ枠組みとしているが、同じ枠組みとしては結びつかないのでは。どちらかという、相談機能は基本目標2に分類されるのでは。

⇒社協としては情報発信と相談機能を踏まえ、基本目標1を作っている。その上で、「福祉の情報」は支援が必要な方への情報提供という意味での相談機能という意味、「地域の情報」とは単純に「地域でこんな活動が行われている」という情報提供をするという意味として捉えている。「地域」という枠組みだけでは足りず、「福祉」という枠組みでも足りない、それぞれ「地域の情報」と「福祉の情報」を併記した形で目標を立てた。

⇒一般的な福祉のイメージではそのような考えを持つことが難しいし、「福祉」を狭い意味で捉えている方も多いと思う。また、「福祉の情報」と「地域の情報」の並び順にそこまで意図は持っていない。

- ・「福祉」は本来自分の身の回り（社会保障等）で当たり前のようにあるはずだが、それが一般の方では分からない状況。どちらかという、困ったときに支援してもらえる「人」や「しくみ」という意味合いという認識の方が一般的には強く、それが「福祉」を説明する上でも重要な部分ではないかと考えている。私は皆が必要な「福祉」があった上で、その先に「地域」の活動が出てくるという認識だが、社協としてはどちらを軸足に置くことが重要だと捉えている。
- ・社協として「福祉」と「地域」に関する説明を市民に伝える際、このような並び順で考えており、困っている人を助けたいので「福祉の情報」や「地域の情報」を差し上げますということを伝えるためにも、個人的には「福祉の情報」と「地域の情報」の並び順はとても重要だと考えている。
- ・基本目標2について「つながりたい時に…」とあるが、本人自身はつながりたくないと考えているが、実際にはつながっていた方が良い人がいるとして、そのよ

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第5回）  
グループワーク報告

うな人をどう表現すべきか。

⇒前回の策定委員会にて話した際、自分では助けて欲しくない人がいた時に、近所のおせっかいな方等がいたら良いという話が出ていた。特に相談機関や専門機関の方だとハードルが高いため、そのような方が話す方が良いのではということだった。そのため、「しくみ」として作るのではなく、「寄り添う」形での対応が良いと思う。

- ・資料4の情報発信の地縁のつながりの中で、「障がい者等の情報弱者が…」という文言と住民のかかわり・つながりの地縁のつながりの中で「外国人や障がい者など地域の情報が…」とあり、情報が届きにくい人が限定的になっているが、私はそれだけではないと思う。また、自分がそのような状況に置かれることもあると思う。そのため、対象を限定せずに幅広い範囲で括っても良いと思う。例えばMCA無線が聞こえないという方も情報弱者にあたると思う。中にはSNSやメールから情報を受け取ることが出来る方もいる。支えようとしている方が支えてもらう立場になることもある。

⇒今後、コロナ禍のように急激に「福祉の情報」が必要な状況となった場合、それを私たちが対応していくような書き方にした方が良い。

- ・相談機能の場を設けた時に、どう制度につなげていくのかという問題もあるが、話している中ではどのように相談機能をつなげていくかという意見が多かった。また、大多数の人は自ら情報を取りに行くことができるので、その情報をより収集しやすくするというのは大事だと再認識した。そのため、AとDを基本目標1に分類した。

⇒三鷹駅のラックの事がグループワークの話題に出てから、何がどのくらい置かれているか、より気になるようになった。

⇒マルシェではさりげなくチラシを置いておいて、欲しい人は黙ってもらっていくという手法を取っている。定期的に地域や福祉の情報を収集できる場所があると良いと考えている。

- ・以前の策定委員会において、地域社協が普段イベントをしているが、本来の目的ではない形でのイベントとなっているという話があったが、原点に立ち戻って誰でも来られるような居場所やサロンを作るという活動をした方が良いと考えている。そのような活動から市民の相談につながる場合もある。私は在宅介護をしている方のお話を聞くサロン活動を15年続けているが、そこではノートを取らず、何でも話し合い、共感をしましようという場にしている。その活動で、何か学びたい、どこか行きたいということになった場合、皆で一緒に行っている。また、サロン活動では、奇数月では専門機関への相談の場としており、偶数月ではフリートークの場として活動している。緊急の場合は活動とは別に専門機関へつなげている。



第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第5回）  
グループワーク報告

- ⇒在支がある地域では在宅介護の方が話し合えるような場が少なくともある。  
⇒そのような活動とは少し違うが、市ではオレンジカフェのような活動も始めている。
- ・あまりにも距離感が近すぎると相談がしにくいという場合もある。例えばご近所が集う居場所では日常的な会話はできるが、深い話はしにくいのではと思う。そのため、テンミリオンハウスのように第三者が相談に乗る場がある方がとても良いと思う。
  - ・中には他市から武蔵野市に相談があることもある。
  - ・なんとなく地域がつながっていると良い場合もある。例えば一緒に活動をしている仲間から実はひきこもりの子どもがいることを相談され、そこから関係機関につながるという場合もあると思う。
  - ・本来は相談を受けた方と関係が深くなると、友人と相談機関との境目が無くなりがちだと思うが、民生委員の方はその切り替えができるのでとても素晴らしいと思う。
  - ・相談を受けた際、その相談者が希望しない場合も必要性を感じた場合は在支に情報共有することもある。
  - ・子どもを守る家のように、商店会の方が困っている人をすぐ助けられるような関係性があると良い。昔はその機能を警察の交番の方が担っていた。
  - ・世代によって綺麗に情報収集の仕方が分かれている。
  - ・地域活動の中で自宅のポストへニュースレターをポストイングしているが、誰も見てくれていない。前回開催したご近所のつどいでは、参加した市民のほとんどが地域社協を知らないという方だった。
  - ・FM むさしのやケーブルテレビから広報するのはどうか。  
⇒特定の年齢層は見聞きすると思うが、普段そのような情報の取り方をしない方も居ると思う。また、年配の方は市報で情報を収集していると思う。  
⇒年代に合わせて情報発信の仕方を変えていくことが大切では。
  - ・地域で居場所をつくったとしても、特定の人に来るようになるだけではと考えることもある。
  - ・社協にて3カ月を通じて地域活動を知る講座を作るのはどうか。  
⇒高齢者総合センターにおいても趣味や学びのための講座がある。
  - ・本人が自発的に情報を収集する場合と本人が収集せずに周りの方（家族等）が考えて情報を収集する場合もある。